2023年2月25日発行

地域と協同の研究センターＮＥＷＳ

222号

第19回東海交流フォーラムを開催しました！

向井忍（地域と協同の研究センター専務理事）

２月１１日(土)、第19回東海交流フォーラム・「協同」が生まれる地域社会づくり～共同・協同・協働～を開催し、昨年に続き今年も会員・参加者は各地域会場に集まり、オンライン含め約80名が参加しました。フォーラムでの報告は、①三重地域（津市会場から）「だれひとりとりのこさない地域をつくるために」（みえ市民活動ボランティアセンター・新海洋子センター長）、②尾張地域（名古屋会場から）「瀬戸市NPOエム・トゥ・エム・さるなかとんなtoto…」での活動報告（金城学院大学朝倉ゼミ生）「難民支援と難民食料支援」（NPO名古屋難民支援室中川季紀さん）、③三河地域（豊橋会場から）「防災について（減災まちづくり研究会・イツモ防災）」（田所登代子世話人）「三河の伝統食（豆味噌）」（池戸麻知子世話人）「新城市のまちづくりと進化するやなマルシェ」（八木憲一郎・前澤このみ世話人・加藤久美子さん）、④岐阜地域（各務原市会場から）「恵那市中野方町　NPOまめに暮らそまい会」（堀部智子・近松香代世話人）「各務原市・9年目の「ささえあいの家の人々」（八木山地区社協清水孝子さん）がそれぞれ事例を発表しました。

発表に続く意見交換では、自身の生活や地域・関わり方に照らした質問や意見が多く出されました。「第一歩を踏み出すための方法や必須な要件はなんですか」「自身も行政の立場ですが、NPOと行政の関係に変化はありますか」「そのような（感動的）活動を継続できる原動力はなんですか」「若い人たちがお弁当づくりに関わるように、どのように進めたのですか」「私の地域も5000人程度ですが、移動支援はどれくらいのニーズがありましたか」「見学に行って学びます」「自治会や町内会の役割に注目して調査研究を」「こうした成果を生協の活動や事業にむすびつけるにはどうすればいいか」「大学生の実践と報告は、学生にとっても私たちにとっても希望」「各報告にある近隣関係と自分の日常生活にはギャップがあるが、そのギャップをどう埋めたらよいか今後のテーマに」などのやりとりが行われました。いずれも自分の経験や行動に裏付けられた発言・提案です。

こうした充実した東海交流フォーラムを企画しているのは会員による実行委員会です。2014年2月の第10回から、各地域懇談会に参加する会員が選んだ地域の事例を紹介し交流する内容になっており、実行委員会では毎回の着目点やテーマを話し合います。テーマをたどると、2014年第10回は「あなたは誰かとつながっていますか」。2016年第12回は「小さなつながりから拓ける協同の未来」。2018年第14回は「未来につなげるためのあなたの身近な資源はなんですか」。2021年第17回は「ひとりが変われば未来は変わる。ひとりひとりが地域を変える、社会を変える」です。自分と「誰かがつながり」、その「小さなつながり」に価値があり、つながりを「身近な資源」によって広げ、「一人ひとりから地域が変わる」という、協同がうまれる実感が表現されています。今年第19回は、そうした「協同」が生まれる地域社会とは？に着目し、「きょうどう（共同・協同・協働）」の形を意識しながら考えるというテーマでした。このように、地域懇談会で話し合って準備し東海交流フォーラムに集まって交流するプロセスは、地域と協

【2ページにつづく】

研究センター2月の活動

3日（金）三重地域懇談会、第９回常任理事会 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同	18日（土）第６回難民食料支援学び語り合う会
7日（火）研究フォーラム環境	20日（月）「組合員意識調査」公開研究会
9日（木）第４回組合員理事ゼミナール	21日（火）尾張地域懇談会
10日（金）第９回協同の未来塾	22日（水）三河地域懇談会「小規模多機能ホーム豊橋北」見学
11日（土）第19回東海交流フォーラム	24日（金）生協の（未来の）あり方研究会
	25日（土）第７回共同購入事業マイスターコース（修了式）

※　各行事は新型コロナ感染対策をとって実施しています。

目次

第19回東海交流フォーラムを開催しました！　1
つながり、支え合う。同じ地域社会に暮らす市民として　神田すみれ　5
情報クリップ　6
書籍紹介「日本に住んでる世界のひと」　8

【１ページからつづく】
同の研究センターならではの「市民参加型・協同研究」の姿になっているといえます。大学生協や地域生協では、コロナ下の3年間に組合員参加が減少したという悩みも聞かれますが、東海交流フォーラムには悩みに応えるたくさんのヒントがありました。第19回東海交流フォーラムの内容はYouTubeで視聴できますので、ぜひご覧ください。　（むかい　しのぶ）

１．　三重地域（津市会場）からの報告（報告：熊崎辰広）

「だれひとりとりのこさない地域をつくるために」

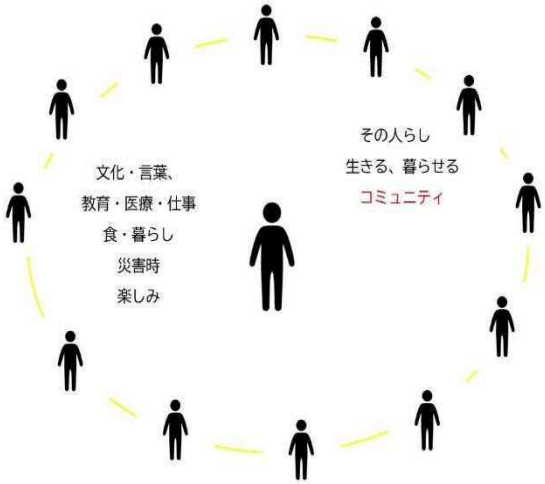
報告：新海洋子さん（みえ市民活動ボランティアセンター・センター長）

三重地域懇談会では、2019年から、「多文化共生」をテーマに活動が続いていることが紹介されました。そして昨年11月には「公益財団法人三重県国際交流財団」主催で、「誰一人取り残さない三重の多文化共生に向けて」をテーマにシンポジウムが開催され、また12月には「みえ市民活動ボランティアセンター」主催で、「みえに暮らすわたしたちの多文化理解」というテーマで、関係者の方、団体からの参加でトークフェスタが行われたとの紹介がありました。今回の報告はその「みえ市民活動ボランティアセンター」センター長の新海洋子さんから、多文化共生の活動についてお話していただきましたので、以下概要を報告します。

「みえ市民活動ボランティアセンター」というのは、県が設置した公設民営のセンターで、私は特定非営利活動法人三重NPOネットワークセンターという法人の職員です。また、公益財団法人ささえあいのまち想像基金財団と一緒に指定管理をとって運営しています。三重県の市民活動ボランティアの活動拠点情報センターで動いています。

今回は特に、多文化共生の課題の事業についての報告です。市民社会のなかで誰でも生きる権利を主張して守られる仕組み作りを、誰一人取り残さない社会を大切にしています。一緒に活動している他の団体とともに、協働して市民自治社会をつくり、持っている力を寄せ集め解決を目指します。その際大切なことは、お互いを知り関係性を育み対話の場が重要です。外国の人が暮らしやすい街にするために、医療や教育、災害等、何を持ち寄ることができるか、互いの強みをどう生かすことができるか、事業を組み立てているところです。

外国の人たちが、この日本で、三重で暮らしやすいと思えるのか、教育、仕事医療等、保障されるための仕組み、制度は整っているのか、そのためのプロジェクトが始まっています。外国の人たちが地域の中で、その人らしく暮らせるコミュニティの中で補償されている場作りが必要です。12月8日には「みえに暮らすわたしたちの多文化理解」を開催しました。三重県内で多文化共生という分野で活動されている13名の方で熱く語り合いました。三重県の外国の人たちをサポートする政策や支援がどの程度実施されているのか、それを見える形にすること。今の制度で不足しているもの、見直しが必要ものを等、また予算や必要なサポート等全体のロードマップを作る事が話し合われました。また。日本に暮らしている外国の人たちとどう関係性を育めばよいのか、また生まれてから死ぬまでのライフサイクルのなかで、どのような政策が、保証が必要なのか、たくさんの課題が出され、行政とも協働しながら具体的な作業を始めないといけない、ということが共有されました。同じ取り組みを今年3月18日鈴鹿で開催します。さらに5年で10か所ほどの企画として進める予定です。



多文化共生のために、誰ひとり取り残さない市民社会から発する市民自治をつくること、行政とも協働しながら政策制度をつくり、コミュニティを豊かにしたいと思っています。　（くまざき　たつひろ）

２．　尾張地域（名古屋会場）からの報告（報告：神田すみれ）

「瀬戸市NPOエム・トゥ・エム・さるなかとんなtoto…」での活動　報告：金城学院大学朝倉ゼミ生

「難民支援と難民食料支援」報告：中川季紀さん（NPO名古屋難民支援室）

尾張地域懇談会からは、懇談会として見学をした２つの団体について報告をいただきました。NPO法人

エム・トゥ・エムについて金城学院大学朝倉ゼミの学生6名から、NPO法人名古屋難民支援室からはスタッフの中川さんから報告をいただきました。

金城学院大学の朝倉ゼミの皆さんからは「NPO法人エム・トゥ・エム　さるなかとんなtotoでの活動報告」というタイトルで報告いただきました。地域で何が起きているのかをエム・トウ・エムの服部さんから話を聞いたことがきっかけとなり、2021年1月からどうぞフードtotoどうぞランチtotoに参加を開始し、自分達にできることを考え、まずはtotoでの支援活動を知って欲しいと、totoの旗を作成したこと、瀬戸市のフェスタでtotoの活動紹介をしたことが紹介されました。2022年に入ってからは、活動の内容も変化し、お弁当を渡す時にスペイン語で渡す、totoの人達とスペイン語の勉強をする、子どもたちと遊ぶというように深まり、学生の皆さんが七夕やハロウィン、誕生日パーティーを企画して子どもたちに楽しんでもらう工夫を凝らしたことが語られました。また「外国人が瀬戸市で生活しやすくするための調査」をしたこと、totoにくる子どもたちとの交流を深めるために今後やりたいと考えていることが紹介されました。

続いてN PO法人名古屋難民支援室の中川さんからは「難民に対する食料支援を通じた地域的繋がりによる支援のかたち～理解し支え合える社会を作るには～」というタイトルで報告いただきました。まず、名古屋難民支援室の紹介、難民支援活動について、名古屋難民支援室とアジアボランティアネットワーク東海と地域と協同の研究センターの３団体で行ってきた難民食料支援について、その目的と背景、食料支援で寄付された食品とその量、６回開催してきた学び語り合う会、世帯の家族構成や宗教的背景に配慮しながら行った食料の仕分けと発送について等、写真を交えながらご報告いただきました。食料支援ではこれまで食料と一緒に難民の方達へ向けたメッセージをお送りしてきたこと、2022年12月の発送の際には、難民の方達からもメッセージをいただけるようメッセージカード作成用にカラー用紙や色紙、ペンを同封したところ、難民の方達からたくさんのメッセージカードが寄せられたことも紹介されました。

（かんだ　すみれ）

３．三河地域（豊橋会場）からの報告（報告：伊藤小友美）

「防災について（減災まちづくり研究会・イツモ防災）」
報告：田所登代子さん（三河地域懇談会世話人）
「三河の伝統食（豆味噌）」報告：池戸麻知子さん（世話人）
「新城市のまちづくりと進化するやなマルシェ」
報告：八木憲一郎さん・前澤このみさん（三河地域懇談会世話人）加藤久美子さん（やなマルシェ）

まず三河地域懇談会で取り組んできた全容を世話人の天野眞知子さんから紹介しました。

三河地域懇談会では、三河地域の会員の協同を基礎に、三河地域のくらしや文化を学び、会員相互の交流を深める取り組みを継続してきました。この４～５年は「粋な老い支度」をテーマに、食と健康、福祉と環境、防災などの学習会や地域の見学会などに取り組んできました。今日は、その代表的な活動として、「防災」「地域の食文化」「市民がつくるまちづくり」の取り組みを報告させていただきます。今年は、「NHK大河ドラマ“どうする家康”」の放送で、岡崎から続く鳳来寺・長篠・設楽原などの三河地域が注目される年になりそうです。三河地域懇談会では、平和、食とくらしの安全・安心、環境と防災、粋な老い支度と福祉・文化など、幅広い学習・交流を続けながら、生協への期待を「どうする　コープ！」にこめて話し合い、協同の輪を広げ強めていきたいと思います。

１つ目の話題「防災」の活動について、田所登代子さんが報告しました。三河地域懇談会では、田所さんの所属する「安城市減災まちづくり研究会」の取り組みから多くのことを学んでいます。「安城市減災まちづくり研究会」は、必ず発生する災害に備えるため 産・学・官・民一体となり安城市の 減災を推進するために発足した団体です。平成２５年度の発足後、各団体が連携し様々な防災・減災活動を行っています。コロナ禍の今、避難所だけでなく、在宅避難、車中泊避難も考えないといけません。日頃の備えについては、世話人会でもかなり話し合いました。たとえば車の中に、毛布・水・食べ物・簡易トイレ・ビニール袋・バスタオルを常備すると、コロナ感染でも、雪道での渋滞でも、いざという時、役に立ちます。合言葉は「イツモ防災」です。三河地域懇談会では「イツモ学習」しています。

２つ目の話題、「次世代に伝えたい三河の伝統食・食文化」ともいえる「味噌」については、池戸麻知子さんが報告しました。「蔵元枡塚味噌」で知られる豊田市の「のだみそ」さんの味噌蔵を見学し、あらためて、「味噌は作らない、そだてる。」という野田清衛社長のお話をじっくり聞きました。豆味噌は、長い熟成を経て強いうまみとこくが出た長老のような味噌です。「煮味噌」などの味噌料理をつくり試食する煮味

噌研究会も開催しました。野菜を切る音、出汁のにおい、たちこめる湯気、そんな五感をくすぐるすべてがおいしさの源です。家康も持ち歩いた「味噌玉」や「焼き味噌」もおすすめです。地域の食文化を大切に、食のあり方についてみんなで考えていきたいと思っています。

最後に、「新城市のまちづくり」と地域の皆さんの取り組みのご紹介を八木憲一郎さんと前澤このみさんから行いました。新城市では、「総合計画」を設計図に、「自治基本条例」をルールブックにして、まちづくり・地域づくりに取り組んでいます。市民・行政と議会の３者の協同・協働や女性議会・若者議会、地域自治区など市民参加でつくる地域づくり・まちづくりを実践しているのです。

このようなまちづくり・地域づくりが進められる中で、「やなマルシェ」の活動が生まれ、発展してきました。やなマルシェでは、まるっ子くらぶに参加していた若いお母さんたちが、弁当づくりに参加するようになりました。軽トラ市に出店したり、結カフェ（認知症カフェ）やまるまるサロンなどの居場所づくりに取り組んだり、閉店したJAの店を拠点に、やなマルシェはさまざまな活動を拡げ続けています。世話人会では、見学・交流を重ね、応援し続けていきます。

（いとう　こゆみ）

４．岐阜地域（各務原市会場）からの報告（報告：井貝順子）

「恵那市中野方町　NPOまめに暮らそまい会」

報告：堀部智子さん・近松香代さん（岐阜地域懇談会世話人）

「各務原市・9年目のささえあいの家の人々」報告：清水孝子さん（八木山地区社協）

岐阜域懇談会からは、継続して訪問している中野方町から、昨年の報告から続いて、「ふれあいセンターまめの木」を拠点にした「まめに暮らそまい会」の活動について報告がありました。「まめに暮らそまい会」は、地域活動からはじまったNPO法人です。「まめに暮らせてわくわく人生」「みんなで支えあうまち」「誰もが安心して暮らせるまち」を目指し、自分たちでできることは自分たちでやろうと住民によるボランティアが中心となって、高齢者支援や育児支援を行っています。社会福祉協議会中野方支部や民生委員などと連携を図りながら、地域の福祉を総合的に担っています。DVD で、紹介された活動　◆おきもり・・・通院・買い物など中野方町内ならどこでも無料で送迎します。◆まめの木くらぶ・・・「行くところがない」「誰とも話さずに一日過ごした」そんなひとりでぽつんとしている高齢者がいないまちになるよう、高齢者がみんなの中で楽しく一日過ごせる場所を提供しています。◆配食サービス・・・一人暮らし高齢者の安否確認と地域の人とのふれあいを目的に配食サービスを行っています。　毎月1回、お弁当を希望される方に、調理ボランティア「ささゆり会」が手作りした彩りのよいお弁当を、民生委員が「お元気ですか？」と声をかけ、届けてくださっています。◆まめくら学校・・・月２回、脳を元気にする活動を行う。◆学童クラブ・・・施設内で「中野方学童クラブ」が、両親が働いている小学1年生から6年生までの児童を対象に、平日の放課後と夏休みに学童保育を実施しています。

実際に訪問した地域懇談会世話人の近松さんからは、特に外出支援「おきもり」の活動について感銘を受けたこと、自身も地域を元気にする団体で「地域防災」について取り組んでいること、中野方地域での活動は自分の地域での活動への力をいただいたとの報告です。堀部さんからは、ふれあいセンターまめの木は、木のぬくもりがあるとても暖かい空間で、居心地がいい。人が大事と感じた。人の役に立てているという応援する側の喜びが元気の源となっていると感じた。生協でやっているくらしの助け合い活動と考え方は同じですが、それが地域の中で実際に成り立っていることが本当に素晴らしい、との報告がありました。

次に、団地の中での住民同士のささえあいの活動について、各務原市の清水さんから、コロナ禍での活動についてお話いただきました。世話人からの質問、「ささえあいの活動になぜそんなに一生懸命にできるのですか？」については、「中野方の方がビデオでも語られていたように、活動をしていることがうれしい、そして、それが意義ある活動だと思っている。そして志を同じくする仲間とたくさんの人と接することがうれしい。」とのお答えでした。コロナ禍、「ささえあいの輪」は、広がっています。引きこもりの方が、ささえあいの活動に参加されるようになったこと、認知症の方の見守り、普通のバスには乗れない人のために介助員付きのバスを走らせる、一緒にささえあいの活動をされてきた方の看取り、公的サービスをいっぱい使って、地域ともつながってできました。ささえあいの活動がどんどん広がって、アフガニスタンまでつながりました。不要になった家具を、地域と協同の研究センターでつながった神田さんの紹介により、命の危険を感じてアフガニスタンから避難された名古屋在住の方に届けられたことが報告されました。

（いかい　じゅんこ）

つながり、支え合う。同じ地域社会に暮らす市民として

神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）

戦争が始まって 1 年になります。2 月 15 日現在、出入国管理庁 都道府県別ウクライナ避難民入国者数は 2291 人、愛知には 95 人、 岐阜には 14 人、 三重には 4 人が避難しています。

東海地域に避難された方達は、本国のご家族やご友人の状況を心配しながら、日本で就労や勉強をして日常を継続されています。日本の小学校や保育園に通いながら、オンラインでウクライナの授業を受け、両国の学びを継続している子もいます。先日お会いしたお子さんに「オンライン授業で一番好きな授業は？」と聞いたところ、音楽と図工と体育と教えてくれました。図工の授業で作った作品も見せてもらいました。オンラインで行うには工夫が必要な授業ばかりですが、オンラインで教えるウクライナの小学校の先生方が、子どもたちが遠く離れたところにいても、楽しく教育を受けることができるよう工夫されていることが伝わってきて、胸が熱くなりました。

一方で、住居、教育の保障、雇用などの問題、命からがら日本に逃げてきた人たちが、安心して住居や雇用が保証されず、精神的に不安定になっている人もいます。中には鬱のような状態になってしまい、まだ戦争の終わっていないウクライナに帰るという決断をした人もいます。戦争とは一人の人の人生をこのように変えてしまうのか、という怒りと悲しみが混ざった気持ちが湧き上がってきます。このような状況を、講演や SNS を通じて発信したところ、多くの方がある一人の避難者の方へ寄付を寄せてくださいました。中には「お国に平和な日々が 1 日も早く訪れますように」と励ましのメッセージを寄せてくださった方もおり、そのメッセージをご本人にお伝えしました。お金はもちろんですが、メッセージをいただいたことが、ご本人にとって大きな励ましになりました。日本語で「〇〇さん、親切なメッセージをありがとうございます。いただいたお金は非常に大きな助けです。本当にありがとうございます。〇〇さんに良い健康と幸せな日々が送り続けますように。」と、お礼のお返事をくださいました。このやりとりから、実際顔を合わせることはなくても、私たちは同じ地域社会に暮らす市民としてつながり、支え合うことができる、そんなことを感じました。

先日、あるオンラインでの講演会では、私が話をした後に「今後継続して一緒に取り組むことができることを具体的に考えましょう」と時間を作ってくださいました。避難された人たちが、社会とつながり、尊厳ある人として主体性を持って生きることができる場づくりについて、どのような工夫ができるか、話し合いました。避難された方一人ひとりの経験やお人柄、これまで培ってきたスキルが、社会や地域で生かされる場をつくることができたらと思いました。

社会と繋がり、自分が今ここにいることを肯定できること。誰かの役に立ち、社会に必要とされていると感じることができるかどうか。これは、誰もが人間らしく生きるために必要なことです。これを満たすことができる方法の一つが働くこと、仕事をすることだと思います。その人のお人柄、持っているスキル、それまで生きてきた中で培ってきた経験が、社会に生かされることで、人は主体的に生きることができます。住むこと、食べること、子どもや若者の教育へのアクセス、そして就労。自分が「こうありたい」という思いを大切にできること、主体的に生きること、それを社会が保証するという事が大切です。

前述の講演会の後の話し合いでは、芸術や音楽のパフォーマンス、ウクライナ刺繍等のスキルを持っていらっしゃる方、これまで培ってきた経験、その人のお人柄が社会で生かされ、それらを必要とする人とつながるような場や機会を作りましょうと話し合いました。具体的にパフォーマンスの場や手作りの作品を販売する場を作ること等を準備していきます。このニュースを読んでくださっている方の中でも、避難されてきた方達の経験やスキルを社会に活かすことができる場づくりや機会づくりにご協力いただける方がいらっしゃいましたら、wsumire@gmail.com までご連絡ください。

（かんだ　すみれ）

情報クリップ

co・opnavi　2023.2　No.849
複数の参加方法を選択できる組合員向けイベント・活動
日本生活協同組合連合会　2023 年 2 月　Ａ４判　36 頁　367 円（消費税込）

＜コープのある風景　コープやまぐち＞
生活事業運営企画　グループマネージャー
久保　康治さん

特集
複数の参加方法を選択できる組合員向けイベント・活動
＜今日も笑顔のコープさん　生協の仲間のお仕事拝見＞
福祉クラブ生協　岡田志穂さん
＜想いをかたちに　コープ商品＞
ＣＯ・ＯＰ鹿児島の黒酢入りたまねぎドレッシング
＜生協大好きママコプ山さんの　教えて！CO・OP商品＞
ＣＯ・ＯＰぷちカリカリ大学いも（スイートポテト風）
＜ネクストブレイクCO・OP商品＞
ＣＯ・ＯＰふっくらジューシー生ハンバーグ
＜組合員に支持される店づくり・売場づくり＞コープみらい
＜日本全国　宅配現場におじゃまします！＞
コープ中国四国事業連合
＜地域に安心を届ける生協の安全運転の推進＞
福井県民生協
＜生協の仲間づくり＞　生協ひろしま
＜SDGs　REPORT＞　コープあおもり
＜With コロナ時代の組合員活動＞　あいち生協
＜この人に聴きたい＞
モデル・タレント　井手上　漠さん
＜ほっと navi＞
パルシステム連合会／みやぎ生協／コープふくしま

月刊ＪＡ　2023.2　vol.816
第 29 回 JA 全国大会決議の実践に向けて⑫
全国農業協同組合中央会　2023 年 2 月　Ａ４判　48 頁　年間予約 5,204 円（消費税込）

特集　第 29 回 JA 全国大会決議の実践に向けて⑫
ー持続可能な畜産・酪農・野菜・果樹の実現に向けて
JA 全中　農政部　畜産・青果対策課
ＪＡ自己改革の進化
ＪＡ自己解放の柱は人づくり
ーＪＡグリーン近江（滋賀県）の取り組み　小林　元
きずな春秋　――協同のこころ――　童門冬二
展望JAの進むべき道
25 期生を迎えるＪＡ経営マスターコース
山下富徳（ＪＡ全中常務理事）
「国消国産」に向けて　第 11 回
「国産酒」としての日本ワイン　長谷　祐
JAグループとSDGs　第 11 回
生産者と消費者をつなぐ交流会
現場を舞台に地道な活動を重ねる　久米千曲
協同組合の広場
（日本生協連、　ＪＦ全漁連、　全森連、　パルシステム）
トピック
日本農業新聞のデジタルイノベーションの取り組み
今村拓郎
海外だより［D.C.通信］第 140 回
Apple の実力　菅野英志
令和3年度JA経営マスターコース優秀論文紹介
農林中央金庫理事長賞
組合員の課題を解決するために
吉田智英　／　ＪＡ兵庫六甲（兵庫県）
ブラジル・コチア産業組合中央会記念賞
組合員から愛されるオンリーワンを目指して
寺田和佐　／　ＪＡ大井川（静岡県）

生活協同組合研究　2023.2　VOL.565
職場におけるダイバーシティ推進―すべての人が働きやすい職場づくりを目指して
公益財団法人　生協総合研究所　2023 年 2 月　B5 判　60 頁　定価 550 円（消費税込）

巻頭言
角を矯めて牛を殺す　麻生　幸
特集　職場におけるダイバーシティ推進
―すべての人が働きやすい職場づくりを目指して
なぜ「ダイバーシティ＆インクルージョン」や「ジェンダー平等」が必要なのか　武石恵美子
女性管理職が増える企業と増えない企業
ーどこが違うのかー　川口　章
この 10 年で女性は働きやすくなったのか　中野円佳

コープみらい・コープデリ連合会が進める
「Women いきいきプロジェクト」の概要と今後の展望
山内明子・石井　亮　　聞き手：平野路子・中村由香
■国際協同組合運動史　（第 11 回）
国際協同組合同盟（ICA）　第 8 回　ハンブルク大会
鈴木 岳
■本誌特集を読んで（2022・12）
松岡賢司・安元正和・山野則子
■研究所日誌
●生協総研賞第 14 回「表彰事業」候補作品推薦のお願い
●生協総研賞第 14 回「表彰事業」実施要領　（抄）
●公開研究会（オンライン）
生協総研賞第 19 回助成事業論文報告会　3／3
ビジネスと人権　～市民社会は今何を求めているのか
3／16
●「生協社会論」受講生募集

文化連情報　2023.2　No.539

医師の働き方改革に対応した魅力ある厚生連病院づくり

日本文化厚生農業協同組合連合会　2023 年 2 月　B5 判　88 頁　文化連情報編集部 03-3370-2529＊注

令和 3 年度文化連会員単協決算分析
未来の農業と地域のくらし支える協同への課題
栗山晴樹
院長インタビュー（339）
人と地域、社会の問題を診る医師を育てる病院づくり
篭島　充
【『JA 大会決議実践スタート！』広報キャンペーン企画】
特集　第 26 回福祉研講演・報告・問題提起
住民の豊かな社会参加を保障する介護制度をめざして
松岡洋子・石川満・朝倉美江・大場勝仁・東公敏
二木教授の医療時評（208）
「全世代型社会保障構築会議報告書」を複眼的に読む
二木　立
食から考える現代資本主義社会（9）
食と農の「金融化」その 3
～日本の私たちの関わりは　平賀　緑
憲法と地方自治を生かそう
持続できる社会を足もとから（6）
自治体による平和文化の醸成　川妻千将
アメリカの医療政策動向（30）
2021 年のアメリカの国民医療支出の動向
髙山一夫
変わる日本のまちづくり（32）
青森県十和田市ハピたのかふぇ
ーまちづくり活動の拠点を商店街にー
杉岡直人・畠山明子
ドイツの対 COVID－19 戦略
堅固な免疫で、パンデミック終息へ
吉田恵子
多様な福祉レジームと海外人材（57）
海外から来日する特定技能外国人の契約書問題
安里和晃
アフガニスタンから見た世界と日本（33）
緑豊かな地球に安心して生きるため、
我々の果たすべき役割
レシャード　カレッド
デンマーク＆世界の地域居住（163）
地域に入り込む中間市の生活支援コーディネーター②
松岡洋子
熱帯の自然誌（83） 鍾乳洞　安間繁樹

◆第 31 回農協生活福祉研究会開催のお知らせ
◆第 24 回厚生連医療経営を考える研究会のご案内
□書籍紹介　国境を開こう！
□書籍紹介　カルト・オカルト
▼線路は続く　（172）
冬の飛騨路　高山本線　／西出健史
▼最近見た映画　そして僕は途方に暮れる
／　菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✤)などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。詳細は研究センター事務局までお問い合わせください。

書籍紹介

井貝順子会員からの書籍紹介

日本に住んでる世界のひと

著者：金井 真紀【文・絵】　価格 **¥1,760**（本体¥1,600）　発売：2022 年 11 月
出版社：大和書房　　サイズ：46 判　　ページ数：240p

内容説明
　一人ひとりの話を、のんびりじっくり聞いてきた。いろんな国から来た、隣人たちの生活物語。日本で暮らしている外国人は 276 万人余。そのほんのひとすくい、18 組 20 人のストーリー。

井貝順子会員から紹介
　来日した理由はさまざま。暮らしぶりも十人十色。 一人ひとりのストーリーを通して見えてくる普段の生活、そして難民問題、地球温暖化、ジェノサイド、民主化運動、差別の歴史など。 18 組 20 人の話を聞いて文と絵にした記録。一部を紹介します。
●韓国　崔命蘭さん　すぐ帰るつもりが 75 年、川崎のハルモニ　●中国・内モンゴル自治区　エンゲルさん　東京で起業したひと、ルーツは草原の遊牧民●東ティモール　マイア・レオネル・ダビッドさん　12 歳で山岳ゲリラへ、いまは広島弁の父ちゃん●ミャンマー　キンサンサンアウンさん　　1988 年の民主化デモの後、17 歳で日本へ●コンゴ民主共和国　ポンゴ・ミンガシャンガ・ジャックさん　入管法改悪デモで出会った、難民申請中のひと
　市井の人でありながらすごい外国人に、金井さんが話を聞いて回り、なぜ日本にいて何をしているのか、母国はどんな国なのかを聞いてできたのが、この本。似顔絵も、金井さんが描いたもので、その人となりが伝わってくる、ほんわか癒される画風です。特に、東ティモール、コンゴ民主共和国、ミャンマーから来られた人のお話が、印象的でした。コンゴ民主共和国　ポンゴ・ミンガシャンガ・ジャックさんは、「日本では、襲われたら警察に通報し守ってもらうことができるでしょ。でもコンゴでは警察が襲ってくる」反体制活動家で、コンゴにいたら命が危ないということで、とりあえず韓国に、韓国でも、危ない目にあって、とにかく逃げなければと、釜山から船で大阪へ渡ります。コンゴに残ったポンゴさんの、両親、3 歳になる甥は、殺されました。そんなポンゴさんは、未だ難民になれません・・・
　今は広島弁ですっかり地域に溶け込んでいるマイア・レオネル・ダビッドさんは、12 歳で家出、行先は山岳ゲリラ・・・すごい。東ティモール独立後、農業関係の NGO で働いているときに、青年海外協力隊員として東ティモールに赴任した奈津美さんと知り合い結婚、今は奈津美さんの故郷広島で暮らしています。1986（昭和 61）年生まれの彼は、私の次男と同じ年、息子と比べたら、あまりに壮絶な生い立ちに、呆然としました。
　わたしにとって「日本に住んでる世界の人」は、散歩中に見かけたり、スーパーのレジでお会計をしてもらったり、知り合いになることはない人たちです。のんびりと平和に生きるわたしが全然知らなかった世界で起きていること、他国の内紛、移民・難民について、身の回りの「日本に住んでる外国の人」とかかわりを持ち、バックボーンについて知りたくなる素晴らしい本です。

地域と協同の研究センター３月の予定

2 日（木）第 10 回協同の未来塾（修了式）
3 日（金）第 5 回組合員理事ゼミナール
4 日（土）「協同組合のアイデンティティ」第二回公開セミナー
5 日（日）多文化連携セミナー
7 日（火）第 10 回常任理事会
12 日（日）くらしと平和をつなげよう！報告・交流会
14 日（火）第 4 回全国協同組合等研究組織交流会
18 日（土）東海交流フォーラム実行委員会・第 4 回理事会
19 日（日）2030 年（住民・自治体・国）公開セミナー
20 日（月）「組合員意識・利用調査」公開研究会
25 日（土）第 13 回友愛協同セミナー
28 日（火）尾張地域懇談会

地域と協同の研究センターFacebook
下記 QR コードでご覧ください。
Facebook　QR コード

※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期・オンライン参加のみとなることがあります。参加の前にホームページ等でご確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS 第 222 号　　発行日 2023 年 2 月 25 日定価 200 円（税・送料込み）
年会費には購読料が含まれています
発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事　鈴 木 稔 彦
〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通１－３９ TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
E-mail　AEL03416@nifty.com　HP http://www.tiiki-kyodo.net/